

中学教师《专业合格证书》日语教材

# 日 语 泛 读

下 册

主编 胡毓铮

东北师范大学出版社

中学教师《专业合格证书》日语教材

# 日 语 泛 读

下 册

主 编 胡毓铮

东北师范大学出版社

## 目 录

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 第 1 課 | 級長のねがい……………小林多喜二 ( 1 )                    |
| 第 2 課 | 日 記……………生徒作品 ( 11 )                       |
| 第 3 課 | 心に残った先生……………庄野英二 ( 23 )                   |
| 第 4 課 | ロバート・オッペンハイマー<br>(一九〇四～一九六七年)…………… ( 35 ) |
| 第 5 課 | き ず……………小林多喜二 ( 46 )                      |
| 第 6 課 | 病気の予防…………… ( 56 )                         |
| 第 7 課 | 山椒大夫……………森鷗外 ( 69 )                       |
| 第 8 課 | 最後の授業……………アルフォンス＝<br>ドーデー ( 82 )          |
| 第 9 課 | 日本語の特質……………遠藤嘉基 ( 99 )                    |
| 第10課  | 外国語の教育……………加藤秀俊 (110)                     |
| 第11課  | 陶工柿右衛門…………… (131)                         |
| 第12課  | 自然と人間……………柏原兵三 (142)                      |
| 第13課  | 日本の気象…………… (155)                          |
| 第14課  | くもの糸……………芥川龍之介 (167)                      |
| 第15課  | キュリ夫人…………… (183)                          |
| 第16課  | 夏の葬列 (一) ……………山川方夫 (204)                  |
| 第17課  | 夏の葬列 (二) ……………山川方夫 (218)                  |
| 第18課  | 音……………森本哲郎 (229)                          |
| 第19課  | 夏草冬涛……………井上靖 (241)                        |

第20課 暗号で散華した山

本長官 (一) .....実松譲 (254)

第21課 暗号で散華した山

本長官 (二) .....実松譲 (264)

第22課 母親 (一) .....小林多喜二 (274)

第23課 母親 (二) .....小林多喜二 (283)

第24課 灰色の月 .....志賀直哉 (294)

( 11 ) ..... 日 ..... 果

( 52 ) ..... 果

..... 果

( 82 ) ..... ( ..... )

( 84 ) ..... 果

( 86 ) ..... 果

( 88 ) ..... 果

..... 果

( 88 ) ..... 果

( 88 ) ..... 果

( 101 ) ..... 果

( 111 ) ..... 果

( 121 ) ..... 果

( 131 ) ..... 果

( 141 ) ..... 果

( 151 ) ..... 果

( 161 ) ..... 果

( 171 ) ..... 果

( 181 ) ..... 果

( 191 ) ..... 果

## 第1課 級長のねがい

小林多喜二

先生

わたしは今日から休ませてもらいます。みんながいじめるし、ばかにするし、授業料もおさめられないし、それに前から出すことにしてあった戦争のお金もだせないからです。先生も知っているように、わたしはだれよりもうんと勉強してえらくなりたいと思っていましたが、吉本さんや平賀さんまで戦争のお金も出さないようなものはもう友達にしてやらないというんです。——吉本さんや平賀さんまで遊んでくれなかったら、学校はじごくみたいなものです。

先生、わたしはどんなに戦争のお金を出したいと思っていますかわかりません。しかし、わたしのうちにはお金は一銭もないんです。お父さんはもう六カ月も仕事がなく、姉も妹もろくろくごはんが食べられなくて、だんだん首がほそくなって、泣いてばかりいます。わたしが学校から帰っていくたびに、うちの中がガラランガラランとかわっていくのです。それなのに、お父さんにお金のことなんか言えますか。でも、みんなが、み国のためだというので、この前、ほんとうに思い切ってお父さんに話してみました。そしたら、お父さんはしばらく考えていましたが、とってもこわい顔をして、み国のためってどういうことだか、先生

にきいてこいというんです。あとで、男のお父さんが涙をポロポロこぼして、あしたからコジキをしなければ、もうくっていけなくなった。それにわたしもつれていくって言うんです。

先生、お父さんはねるときに、いま戦争につかっているだけのお金があれば、日本中のお父さんみたいな人たちをゆっくり食べさせることができるんだと言いました。——先生はふだんから、貧乏なかわいそうな人を助けてやらなければならないし、人とけんかしてはいけないと言っていましたね。それなのに、どうして戦争してもいいんですか。

先生、お父さんがかわいそうですから、どうか一日もはやく戦争なんかやめるようにしてください。そしたら、お父さんやみんながらくになります。戦争が長くなればなるほどかかりも多くなるし、みんながモット食べられなくて、日本もきつとロシヤみたいになると、お父さんがいっています。

先生、わたしは戦争のお金を出さなくてもいいようにならないければ、みんなにいじめられますから、どうしても学校にはいけません。お願いします。一日もはやく戦争をやめさせてください。ここの長屋では、もう一月も仕事がないければ、みんなで役場へ出かけていくといっています。そうすれば、日本はきつとロシヤみたいになります。

どうぞ、お願いします。

この手紙を、わたしのところへよく話しにくるある小学校教員がもってきた。高等科一年の級長のかいたものだそうである。原文のままである。——わたしはこれをよん

で、もう一息だと思つた。しかし、この級長はこれからぶ  
つつかつていく生活からほんとうのことを知るだろうと考  
えた。(一九三一年一二月一〇日)

## 作 者

小林多喜二（こばやしたきじ）（1903年—1933年）は  
日本の優れた革命作家である。彼は秋田県の没落した貧し  
い農家に生まれ、パン工場で働いていた。伯父の援助で高  
等商業学校を卒業した。その後ある銀行に勤めながら在学  
中からすでに書きはじめていた小説を書きつづけると同時  
に労農運動に参加した。このような自己変革の努力を通じ  
てプロレタリア作家へと成長していった。彼は1929年に創  
立された日本共産党に入党、作家同盟書記長として活躍し  
ていた。1933年二月東京で反動政府に逮捕され、特高の拷  
問によって虐殺された。彼の代表的な作品は《蟹工船》、  
《党生活者》などである。

## 詞 汇

|          |         |        |                  |
|----------|---------|--------|------------------|
| きゅうちょう   | （級長）    | 〔名〕    | 班长               |
| いじめる     | （苛める）   | 〔下一他〕  | 欺负、虐待            |
| ばかにする    | （馬鹿にする） | 〔连〕    | 欺负，愚弄，玩弄，<br>瞧不起 |
| じゅぎょうりょう | （授業料）   | 〔名〕    | 学费               |
| ウント      |         | 〔副〕（俗） | 用力地，多多地          |
| よしもと     | （吉本）    | （姓）    | 吉本               |

|              |            |        |                                |
|--------------|------------|--------|--------------------------------|
| ひらが          | (平賀)       | (姓)    | 平賀                             |
| じごく          | (地獄)       | [名]    | 地獄                             |
| ろくろく         | (録録) → ろくに | [副]    | (没) 好好地,<br>(不) 充分地            |
| くび           | (首)        | [名]    | 脖子                             |
| それなのに＝それなのに  |            | [连]    | 既然……, 可是…                      |
| みくに          | (御国)       | [名]    | 祖国, 国家                         |
| ガラランガラント     |            | [副]    | 空空荡荡                           |
| おもいきる        | (思い切る)     | [五自]   | 决心, 狠心                         |
| ポロポロ         |            | [副]    | 叭嗒叭嗒                           |
| こぼす          | (零す)       | [五他]   | 流, 洒                           |
| こじき          | (乞丐)       | [名]    | 乞丐                             |
| びんぼう         | (貧乏)       | [名・ダナ] | 穷                              |
| どうか          |            | [副]    | 请                              |
| かかり          | (掛り)       | [名]    | 费用, 花销                         |
| ながや          | (長屋)       | [名]    | 贫民住宅                           |
| やくば          | (役場)       | [名]    | 街公所或村公所                        |
| こうとうか        | (高等科)      | [名]    | 战前日本小学的<br>高等科, 相当于初中一、<br>二年级 |
| ひといき         | (一息)       | [名]    | 一把劲                            |
| もう一息だ(＝あと一息) |            |        | 再加一把劲                          |
| ぶつつかる(＝ぶつかる) |            | [五自]   | 撞、碰                            |

注

釋

1. ばか (馬鹿)

① [名・ダナ] 傻瓜, 糊涂虫

○あいつはばかだな。那小子是个糊涂虫。

○ばかをいうな。别瞎扯，说傻话。

②ばかにする [连] 瞧不起，轻视

○人をばかにする。瞧不起人，欺负人。

○彼はクラスの皆にばかにされている。

他在班里受大家欺负（瞧不起）。

③ばかになる [连] 不中用，不好使

○ねじがばかになった。螺丝不灵了（不好使了）。

○風を引いて鼻がばかになった。由于伤风鼻子不好使了。

④ばかに [副] 非常，极其，特别

○今年はばかにあついです。今年特别热。

○雪がばかに降ります。雪下得太大。

2. みたい [助動・ダナ] (俗) (接体言及活用词连体形下形容动词词干) 比喻

○学校の前は公園みたいで草花が一面さいている。

学校前面好象公园，花草盛开。

○その子供みたいにわいわいさわぐな。别象个小孩子似地大声吵嚷。

○このごろあたたかくて春みたいだ。近来暖和得好似春天。

○まるで真冬みたいな寒さだね。宛如严冬一样寒冷。

3. なんか (何か) [副] 它和“など”意义用法同，但“など”较郑重，“なんか”很随便，多用于口头语。

①表示例示，从相同事物中举出一例。

○ぼくは野球なんか大すきだ。我最喜欢打棒球什么

的。

○いまごろみかんなんかない。 现在没有桔子什么的。

②表示概括。

○酒やたばこなんかのまないほうがいい。 最好别吃别喝烟酒之类的东西。

○わ父さんにお金の事なんか言えますか。 能跟父亲提钱之类的事吗？

③表示轻视或谦逊（自卑）。此种用法较多。

○ぼくなんかにはわからない。 象我这样的人是不懂的。

○あなたにくらべたら、私なんかまだまだ努力が足りません。 跟你比我还远远努力不够。

○どうか一日もはやく戦争なんかやめようとしてください。 请早一天停止战争吧！

4. だけ〔副助〕足够的、所有的。接动词连体形下，用「だけの」的形式表示限定程度。足够的，所有的。

○あるだけの力を革命につくしたいと思います。 我愿把我所有的力量献给革命。

○私達は困難にうちかつだけの自信と勇気をもっている。 我们有战胜困难的足够的信心和勇气。

○先生、お父さんはねるときに、いま戦争につかっているだけのお金があれば、日本中のお父さんみたいな人たちをゆっくり食べさせることができるんだといいました。 父亲就寝的时候说，现在如果有所有用在战争的钱，就可使整个日本作父母的人们都能吃上饭。

5. って〔助詞〕接句子或各种文节下，只用于口头谈话。

它是下面几种说法的约音。①「と」②「という」③「  
というのは」(といふことは,といふものは,といふところは)

○知らないって言ったよ。(一と) 他说不知道。

○それに私もつれて行くって言うんです。(一と)。而且  
说也带着我去。

○あした帰るって話だよ。(一という) 说是明天回去。

(回来)

○山田って人、ご存じですか。(一という) 您知道山田  
这个人吗?

○今晚映画があるってほんとかい。(一というのは) 听说  
今晚有电影,是真的吗?

○京都ってそんなにいいところでしょうか(一というところ)。  
京都那个地方是那样好的地方吗?

6. (さ) せてもらう、(さ) せていただく [惯用型] 表  
示说话人请求别人允许自己作什么。

○请允许我…, 请您让我…

○この仕事を私にさせてもらいます。 请让我作这件事。

○私達は途中で一時間ぐらい休ませてもらった。 途中让  
我们休息了一小时。

○先生、わたしは今日から休ませてもらいます。老师, 从  
今天起请允许我不上学吧。

7. わたしは戦争の金を出さなくてもいいようにならな  
ければ……」这句话直译是“如果我若是不成为不交战费也  
可的那样人的话……”。其意是“除非我被批准为免交战  
费生之外。”

注: ①「戦争のお金……」ここで戦争というのは日本軍

閥が中国を侵略した戦争のことをさしている。

②「もう一息だと思った」ということは作者がこの手紙を読んでそのときの情勢が革命を行うのに有利になったことを言っている。

③「日本もきっとロシヤみたいになる」という級長の父親のことは1917年のロシヤ革命後の十数年間のことを言っている。

## 練習

1. 次の文の「…って」のいみを言って中国語に訳しなさい。

○かれはそんなことなんか知らないって帰っていった。

○田中さんって人はどんな人かね。

○あしたの晩サッカーの試合があるって話だ。

○兄弟ってものは仲よくなくちゃだめだよ。

○公害ってほんとうにおそろしいものだね。

○つまらないじゃないかって思ったんですけどわりあいに面白かったね。

2. 次の文を中国語に訳しなさい。

○山田さんはあんなに働いているのに、ろくろくご飯も食べられないので、体がだんだんわるくなりました。

○それだけの米があれば日本中の人々に二三カ月も食べさせることができると山田さんがいっていました。

○み国のためだと先生から教えられたので、この前、思い切ってお父さんにお金のことを話したらお父さんはしばらくたってからとてもこわいかおをして、み国のためってどういうことか、先生にきいてこいといいました。

○家の中の金になるようなものはどんどん売られています。わたしが学校から帰ってくるたびに家の中はガラランガランとかわっていくのです。

○さすがにえらい文学者だ。そんな暗黒な時代にこんな立派な小説をかいてくれたのだ。

○あの人はいつも人を待たせる人だ。

○本人（ほんにん）を来させてください。

○一科目（いっかもく）でも不合格だったら卒業させてくれない。

○父は八つのときから少年工になり、一日十二時間、ときには十四時間も働かされ（せられ）てすっかり体をわるくした。

○あしたは休ませていただきます。

○では、司会をやらせていただきます。

3. 次の問いに答えなさい。

○この手紙は誰が誰にかいたのですか。

○級長は先生にどんなことをねがいましたか。

○級長はなぜ学校をやすませてもらおうと先生にいいだしたのですか。

○どうして級長は学校は地獄みたいなところだというのですか。

○級長のうちのくらしはどうですか。

○級長がお金のことをお父さんに話すと、お父さんはなんといいましたか。

○級長のお父さんは戦争に対してどんな考えをもっていましたか。

○「日本も ロシヤよりましになる」といふのにとういうい

みですか。

○長屋の人たちのくらしはどうですか。かれらはどんなことをするつもりですか。

○作者はこの手紙を読んでからどう考えましたか。

○作者はなんのためにこの文章をかいたのですか。

○小林多喜二さんはどんな人ですか。かれについて知っていることを少し話してください。

## 第2課 日記

生徒作品

### 第一日

みんなは、予定のとおり、三泊四日の修学旅行に出かけていった。参加できなかったのは、わたしひとりだけである。二年以上も医者にかかりきりだったのだから、しかたのないことだ。あきらめてはいたものの、ひとりになると、やっぱり寂しくてならない。

出かける前に、田中さんが、旅行のために作った「旅の歌集」をくれた。

「もらってもいいの。」

と、わたしが言ったら、

「あたりまえじゃないか。ぼくたちが、バスの中や旅館で歌っているところ、きみも歌ったらいいよ。」

と、慰めるように言ってくれた。

駅で、佐佐木先生にお会いしたら、

「わざわざ見送りに来てくれたの。ありがとう。」  
と言われた。

上田先生が、わたしのそばへ来られて、

「からだの調子が悪いの。」  
ときかれた。わたしは、「はい。」と答えたつもりだが、声にならなかった。急に、熱いものがこみあげてきて、押えるのに困った。

窓側の席にすわっていた大木さんが、わたしに手を振

って、

「あなたには悪いけれど、行ってくるわね。さようなら。」

と言ってくれた。ふだんは、がさつな人なのに——、と思うと、そのことばが妙に心にしみてうれしかった。

列車が動きだした。みんなは「さようなら。」と言い、手を振りながら遠ざかっていった。

悲しかったけれど、「友だちはいいものだなあ。」とつくづく思った。そうして、ふとイギリスのことわざが思い出された。

“A friend in need is a friend indeed.”（まさかのときの友こそ真の友である。）

ゆっくり、ゆっくり歩きながら、家へ帰ってきた。

## 第二日

きょうは、図書室で一日暮らすのだ。とても寂しく感じられる。図書室にはだれもいない。松本先生が調べものに来られたついでに、すこし話をしていかれたただけである。

本を読む気がまったく起こらない。レース編みをする気にもなれない。ぼんやりと図書室の時計を見ては、「旅のしおり」の日程表を取り出し、みんなのようすを想像してみるだけだ。今、十時十五分だから、みんなは原生花園で、ハマナスの花などを背景に、記念撮影をしたりしているだろう、——というように。

きのうの天気予報では、阿寒地方は「曇り、ときどきにわか雨。」ということだった。ゆうべは「お天気になりま

すように。」と祈って寝た。が、網走の方の天気はどんなだったろうか。

友だちの楽しそうな顔を思い浮かべながら、自分ひとりが図書室でぼんやりしているなんて、どうしても奇妙な気がしてならない。

夜、母や妹といっしょに、スポーツセンターに行った。ハーバード大学グリークラブの合唱を聞くためである。

「黒人霊歌」がいちばんよかったと思う。ハーバード大学、北大合唱団、そして学大グリークラブ員百八人の大合唱「この古い金づち」は、実に力強い感じで、すばらしかった。

旅館の友だちの消燈時刻のころ、スポーツセンターを出る。まだ、みんなおしゃべりをしているだろうと思いながら。

### 第三日

温根湯から寄せ書きの手紙がきた。短いことばの中に、友情がこもっていて、とてもうれしかった。何度も読み直してみた。家の人の前では平気を装っていたが、自分のへやにはいって寄せ書きを読み返していると、涙が出てきた。

みんなが無事帰ってくることを祈って寝た。